

平成 30 年 5 月 27 日

学都松本教育 100 年を語る会講座

100 年前の子どもたちのクラフト

1 学都松本

三ガク都の中の“学都”

「学ぶこと＝生きること」「よく学ぶこと＝よく生きること」

学都の象徴－旧開智学校校舎（昔の学びの宝庫、“日本一の教育実践資料”）

2 クラフトの入口 図画工作

現在の図画工作、昔は手工教育

手工教育の創始者は松本ゆかりの人物 上原六四郎

(1) どんなものを作っていたか？

旧開智に残る子どもの作品や教案

(2) 何を学んでいたか？ 現実と理想

現実（法令等による教則）	年代	理想（研究者等の意見）
眼及び手を練習して簡易なる物品を製作する能力を養い、勤労を好む習慣をつける、実業発展の基礎に	明治 20 年代	目と手を通じて人間の諸能力を開発し道徳的諸習慣を啓培、経済的に考えるべきではない
簡易なる物品を製作する能力を伸ばし、勤労を好む習慣を養う	明治 30 年代	感覚を鋭敏にし、観察を精緻にし、想像力・思考力・注意力を養い、美的倫理的感覚を養う、筋肉の動きを自由敏活にする
簡易なる物品を製作する能力を与え、工業の趣味を増し、勤労を好む習慣を養う 高等科に製図	明治 40 年代	製作の結果ではなく、その過程が大切である、手工科の本領は自発的に自己表現ができること、説明や例示が細かすぎ、児童を自由に活動させるべき（文部省視学委員岡山秀吉）
実業において工業を学習する児童に課すことが可能という条文とともに、高等小学校で必修化	大正～昭和	大正新教育の盛り上がりの中で、創作活動を中心に芸術的要素を強調した工芸としての手工教育が提唱される
産業戦士の育成	戦中期	

※開智学校の教授細目（実践の様子は）

(3) 明治時代の作品と昭和時代の作品を比べてみると…



図画

教材 家

準備 画紙、色チヨーク

教授 前期第十四週ノ教授法ニヨリ臨画練習

〔欄外〕 道具持参セザルモノ多ク為ニ図画ニ付道具ノ使用法ヲ講ズ

手工

教材 小撚

準備 第一週ノキノ如クス

教授 前週ノ如クス 批正

第参週 自九月十四日 至十九日

図画



前週ハ水平線、曲線、渦線ノ画キ方ヲ三角定規及尺度ニヨリ練習セルヲ以テ本週ハ臨画ニテ家ヲ画カシム 教法ハ前期第十四週ニ準ズ
色チヨークヲ用フルコト

手工

本時間モ前週ノ通り小撚ノ練習

第四週 自九月廿一日 至廿六日

図画

教材 糸瓜

準備 画紙 色チヨーク

教授 糸瓜ノ特色ヲ指示ス

同業及ヒ蔓ニ付テ注意スベキ点ヲ教授ス
画紙ノ上部ニ画カシムルコト

一、葉 二、糸瓜 三、蔓 四、花

〔欄外〕 木曜日ハ秋季皇靈祭ニテ教授ナシ

手工

教材 粘土細工 盆

準備 粘土、粘土用板、ヘラ、

教授 粘土ハ指先ニテナルベク粘ルコト

次ニ盆ノ底トナルベキ粘土ヲヨク粘リ円形ノ平タキモノヲ製作セシム(一、球、次ニソレヲ薄ク平タルスルコト)

次ニ二分セシ一部ノ粘土ヲ取りコレニテ細長キ棒形ノモノヲ二本作ラシメ此ヲ盆ノ縁トナサシム

次ニ余分部分ハ竹ベラニテ切取り仕上ケラサシムシ

然ル後チ批正ヲ加フ

第五週 自九月廿八日 至十月三日

図画

本週ハ神道祭典ノ為教授セズ

手工

教材 桃 粘土細工

準備 桃ノ実物及図画ニヨル 粘土、粘土用板

教授 各児童ヲシテ桃ノ実物或ハ図画ニヨリ其形ヲ製作セシム

批正ヲ加ヘ其特徴ニ注意セシム

第六週 自十月五日 至十日

図画

教材 本週ノ教材ハ前第四週ノ教材ヲ繰越シ教授ス 糸瓜

手工

教材 栗 粘土細工

準備 栗ノ実物又ハ図画 粘土、粘土用板、

教授 各児童ヲシテ栗ノ実物又ハ図画ニヨリ其特徴ヲ指示シ其形ヲ製作セシム



図画

批正ヲ加ヘ其特徴ニ注意セシム
第七週 自十月十二日 至十月十七日

教材 稲穂

準備 稲穂ノ実物 臨画



教授 稲穂ヲ示シ其特徴ヲ指示シ然ル後手本ニヨリ其形ヲ画カシム

手工

教材 砧及槌

準備 粘土、粘土板、竹へら、布巾、水

教授 粘土ヲ適度ニ各児童ニ分与シ置クコト

粘土ヲ二分セシムルコト

一ハ槌 一ハ砧台



最初槌ヲ造ラシメ次ニ円キ砧台ヲ造ルコト

批正訂正シテ評点ヲ附スルコト

第八週 自十月十九日 至十月二十四日

図画

父兄懇話会ノ為授業セズ

第九週 自十月廿六日 至十一月一日

手工

父兄懇話会ニ付教授セズ

第十週 自十一月二日 至十一月七日

図画

教材 鼠

準備 教科書ニヨル、鉛筆、画紙

教授 教科書ニヨリ鼠ノ特性ヲ問答シ鼠ノ特点ヲ指摘シ予メ其形



手工

教材 瓶

準備 粘土 粘土板

教授 瓶ニ付特点ヲ問答シ粘土ヲ採ラシム
毬型ヨリ全ク隋円形ニ作ラシメ指先ニテ其形ヲネリツ、製作セシム

批正 自十一月九日 至十一月十四日

第十一週

図画

前週画カシメシ鼠ヲ墨汁ニテ墨黒々ト塗ラシメ仕上ケラナ

手工

再批正ヲ加フ

手工

教材 臼 杵

準備 粘土 粘土板 籬竹一寸五分位ノモノ一

教授 臼及杵ニ付其特点ヲ指適シ円形ヨリ次第二平タキ円柱ニナシ指先ニテ窪ミヲツケ臼ヲ作ラシム

杵ハ円柱ニ棒ヲフスルコト

第十二週 自十一月十六日 至十一月二十一日

図画

教材 旗行列

準備 画紙及色チヨーク

教授 記憶画 各児童任意ニ画カシム

批正



大正8年の手工科教案

	一五 奴胤		一四 練習
<p>法 方</p>	準備 同上		要旨 既習ノバツタカフト福助ノ練習 準備 同上

	全上オバケ		一六 練習
	引出す		要旨 模様及ヒ目鼻ヲ加ヘテ興味ヲ加フ
	折リタルモノ		要旨 奴胤ヨリ色々ニ折り返スモノ 襷袢(奴胤ノ顔ヲ開キテニツニ折リタルモノ)

注意 全部ヲ与フルモノニアラズ其内ノモノヲ撰ミ出来得ル丈ケトス		<p>準備 色板ノ内 四角、棒</p> <p>要旨 極メテ簡易ナル庶物ノ形ヲ作ル事ヲ工夫セシムルト共三色ノ配合ヲ知ラシムルモノトス</p> <p>三旗、竹馬、梯子、帽子、本、鳥居、火鉢、コップ、門、立机</p> <p>尋常科一学 第一期 色板排</p>	<p>(注) 水彩絵ノ具デ彩色サレタ図版ハ口絵ニ掲載シテ</p> <table border="1"> <tr> <td>一六</td> <td>練習、応用</td> <td>家</td> <td>家山子</td> <td>梨</td> <td>ローソク</td> </tr> <tr> <td>一五</td> <td>奴胤</td> <td>折紙細工</td> <td>舟</td> <td>林檎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一四</td> <td>練習</td> <td>蟬</td> <td>舟</td> <td>林檎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一三</td> <td>福助</td> <td>蟬</td> <td>舟</td> <td>林檎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一二</td> <td>カフト</td> <td>蟬</td> <td>舟</td> <td>林檎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一一</td> <td>箕、其他</td> <td>蟬</td> <td>舟</td> <td>林檎</td> <td></td> </tr> <tr> <td>一〇</td> <td>バツタ切方</td> <td>蟬</td> <td>舟</td> <td>林檎</td> <td></td> </tr> </table>	一六	練習、応用	家	家山子	梨	ローソク	一五	奴胤	折紙細工	舟	林檎		一四	練習	蟬	舟	林檎		一三	福助	蟬	舟	林檎		一二	カフト	蟬	舟	林檎		一一	箕、其他	蟬	舟	林檎		一〇	バツタ切方	蟬	舟	林檎	
一六	練習、応用	家	家山子	梨	ローソク																																								
一五	奴胤	折紙細工	舟	林檎																																									
一四	練習	蟬	舟	林檎																																									
一三	福助	蟬	舟	林檎																																									
一二	カフト	蟬	舟	林檎																																									
一一	箕、其他	蟬	舟	林檎																																									
一〇	バツタ切方	蟬	舟	林檎																																									

	<p>準備 色板、丸、三角、マ三角、四角、マ四角、棒</p> <p>要旨 同上</p>	<p>五 弥次兵エ、手水鉢、街灯、蝶、家、交叉、石灯笼、花菱模様、四ツ菱、菱撃、農夫、</p>		<p>四 三角形模様、四角形模様、星及五角形、水車、ホ、ツキ、福助、月ニ雲、山ニ太陽、風車、蜻蛉、帆船、融章、簪</p> <p>準備 色板、三角、丸、棒</p> <p>要旨 同上</p>
--	---	---	--	---

子女菊水		二 男柄杓	一〇 子女全上		子女織取楓葉
		要旨 全上ノ仕上	要旨 全上ノ仕上		
準備 色糸黄 藍 其他全上	要旨 稍複雑ナル曲線形ノ縫取方ヲ練習セシム	方法 一、外皮ヲ剥ギ取ル 二、節ノアル方ノ角ヲ丸ク削ル 三、柄ノ先ハ丸クスル 四、孔ヲ穿チテ柄ヲハメル	準備 節竹 其他全上及錐	要旨 簡單ナル日用品ヲ作り同時ニ斜ニ孔ヲ穿ツコトヲ練習ス	要旨 実物写生ニ依リテ形ヲ縫ヒ表スノ練習
				方法 一、多少ノ曲線使用故ニ注意シテ比較的多クノ孔ヲ穿チテ縫ハシム 二、糸色ハ各自ニ色ヲ考案セシム 三、葉ノ脈ハ入レザル方宜シカラシム 四、葉ノ画ハ予メ画キ置クコト	

子女扇ト团扇		二 子女全上	一三 子女全上		方法 一、与ヘラレタル下図ヲ台紙上ニ重ネテ線ノ弧状ノ緩急ニ応ジテ孔ヲ穿ツ 二、務メテ直線ノ接続部ノ端曲ナランコトニ注意シツツ適當ノ色糸ニテ縫取ルベシ 注意 下図ハ適宜ノ方法ニヨリテ製シ児童ニ与フベシ 色糸ハ出来得ベクバ児童ヲシテ自ラ染メシムル方可ナラン
		要旨 全上ノ仕上	要旨 全上ノ仕上		
要旨 写生ヨリ材料ヲ得テ曲線ノ縫方ヲ練習	方法 一、一枚張ナラバ縦ノ骨三本横ノ骨四本、斜ニ入レルモノ二本削ル各先端ヲ八分程宛割ル 二、各骨ハ細ク切りタル紙ヲ巻キ附ケル 三、各骨ヲ組合セル 四、予メ画キタル絵ノ紙ヲ貼り附ケル四方ノ縁ヲ裏ハ折返シテ貼り附ケル 五、乾キシ後麻糸ニテ上部ヲ弓形ニ吊ル 注意 貼ル紙ハ予メ児童各自ノ好ム絵ヲ画カシメ置クコト 児童ヨリ二枚張ヲ望ムトキハ竹骨等幾本ニスルガヨキカヲ考ヘシム	準備 骨トスル竹、紙、糊、削台、麻糸	要旨 遊戯的ヲ加味シタル竹ノ組方及紙ノ張り方ヲ練習ス		

	三 筆立		二 石灯笼	一 粘土細工	週 題 目
	要旨 実物ヲ正確ニ模造セシム		準備 標本、粘土、粘土板 篋 湿布 トロ	要旨 写生ニヨリテ得タル材料ヲ以テ実地製作ノ能ヲ養フ <small>(分限内以下略)</small>	
方法 一、粘土ヲ厚サ一分位ノ板ニ展ベテ切篋ニテ平ニ磨キ之ヲ直径ノ三倍位ノ長サト直径ノ割合ニ切り取ル 二、円筒ニ作りテ「トロ」ニテツケル 三、底ハ直径ヨリ三分位大キク丸ク作ル 四、ツギ合セタル円筒ヲ「トロ」ニテ底ニ附ケル 五、乾燥シテ後隨意模様ヲ附ケル	準備 標本、粘土、粘土板 篋 湿布 トロ	方法 一、各部ノ割合ノ見積 二、台サホ上台火袋笠ノ順ニ作ルカ其ノ反対ニ製作 三、形ハ各自ノ随意トナスコト 四、火袋ハウロニスル方ヨロシ	準備 粘土、粘土板、布、針金、篋	要旨 写生ニヨリテ得タル材料ヲ以テ実地製作ノ能ヲ養フ <small>(分限内以下略)</small>	要 項

	七 彫刻		五 実物写生	四 全上	週 題 目
	要旨 彫刻ニ表シ形状ノ美ヲ弁知セシメントス 「トロ」ニテ板ニ貼り附ク		準備 一般用具、植物ノ葉又ハ幾何的形物、其ノ他ノモノ	要旨 実物ヲ細密ニ観察シテ之ヲ模造スル方法ヲ授ク	
方法 一、彫刻ニ二種類アリ一ハ浮キ出スモノ他ノ一ハ彫リ込ムモノトアリ 二、茲ニテハ浮キ出スモノヲナス先ニ板ヲ作りテ実物ノ形ヲトリ実物ヲ見テ正シク製作セシメテ後之ヲ「トロ」ニテ板ニ貼り附ク 注意 粘土ガ粘土板ニ附カザル様ニナスニハ粘土ト木ノ板トノ間ニ紙ヲ敷キ置クベシ	準備 一般用具、植物ノ葉又ハ幾何的形物、其ノ他ノモノ	方法 教材ハ成ルベク地方ニ沢山アルモノヲ用ユ然シテ其ノ中ニ就キテ粘土細工ニ作りテ興味多ク又児童ノ技術ニ適応スルモノニシテ他教科ニ連絡アルモノヲタル可シ	準備 草木ノ葉、枝、花、実ノ類	要旨 全上ノ仕上	

24 手工科細目 大正八年度

尋常科一、二、三、四、五、六学年

〔手工科細目 校長用〕 (謄写印刷)

Ⅶ・3-1T・88・1

修正に就て

一、従前の細目があまりに形式的進度的にて活用されざりし恨みありしを以て今回は細目兼教授資料様のものとし各教材の要旨及要項より準備の欄に至る迄詳細に記入し以て生命ある細目たらしめんとせり

一、五六学年は男女別に編成し女子のために新に縫取を加へたり

一、各教材前後の關係に特に意を致して各学年に配当し幼稚園の細目をも参考とし図画其他の教科とも出来得る限り連絡を計りたり

一、教授者の意見或は教授時間の關係にて教材変更の必要もあらんとし各教材の終りに補充材料を加へたり

一、修正の命を受けし頃豆細工用豌豆扠底にて殆んど教授し能はざりし状態にありしを以て万一の場合を考へ豆細工に代ふるに粘土及折紙の教材を増して別案をつくり一、二学年の終りに附け加へたり

大正八年七月

以上

教則(第十二条)

手工は簡易なる物品を製作するの能を得しめ勤勞を好む習慣を養ふを以て要旨とす

各種類ノ要旨

色板排

形ト色トハ物体ニ関スル知識ノ基礎ニシテ物体ノ性質中最モ識別シ易ク随テ兒童ノ注意ト興味トヲ惹起セシムルニ適當ナルモノナリ色板排ノ目的ハ手技ニヨリテ種々ノ色ノ骨牌ヲ排列換置スル事ニヨリテ種々ノ物形ヲ作ラシメ以テ簡易ナル形ト普通ナル色トニ関スル觀念ヲ啓発シ兼ネテ眼ト手ノ練習ヲ計ルモノナリ

豆細工

此細工ハ柔軟ナル豆ニテ籩ヲ接合シテ幾何形体器物家屋等ノ形ヲ模造スルモノニシテ其特長トスル所ハ製作方法ノ最モ簡便ニシテ而モ兒童ノ觀念ヲ發表シ又ハ工夫構成ノ力ヲ練ルニ適シ且ツソノ製作物ヲ図画トシテ現ハスニ頗ル便利ナルニアリコレコノ細工ニ於テ作りタル形体ハ解剖的ニシテ何方ヨリ見ルトモ同時ニ全体ノ構造ヲ洞察シ得ルノミナラズ其形体ヲ構成スル所ノ骨組ハ図画ニ於テ線トシテ画キ得ル所ノモノナレバナリサレバ此細工ニ於テハ兒童ヲシテ新奇ノ形ヲ工夫セシメ又ソノ製作品ノ見取図ヲ画カシムルコトニ力ヲ用フルヲ肝要トス

粘土細工

粘土を用ヒテ種々ノ形体ヲ造ルモノニシテ手指ノ運用ヲ練リ視官ヲ鋭敏ニシテ想像思考ノ能ヲ高メ兼ネテ美感ヲ發達セシムル等ニ於テ手工中最モ有益ナルモノナリ

粘土ハ柔軟ニシテ工ヲ施スニ殆ンド力ヲ用フルノ要ナク指頭ノ僅ナル圧力ニヨリテ千態万狀ノ形態ヲ巧ニ作為スルヲ得ベシ工具ノ如キハ皆細小且低廉ニシテ入用ナキニアラザレドモ而モ多クノ場合ニ於テハ指頭ヲ運用シテ製作スルニ若カズ手指ノ教育上コノ細工ガ重要視セラル、所以ハ実ニコ、ニ在リ